

学校図書館の連携に関するアンケート結果のまとめ

1. アンケートの概要

目的

(仮称) 浦安市子ども図書館基本構想策定にあたり、現在の学校図書館と保護者・地域の方や市立図書館との連携の状況と、(仮称) 浦安市子ども図書館へのニーズを把握するため。

調査方法

対象	浦安市立小・中学校の学校図書館に勤務する司書
配布数	小学校 17 校、中学校 9 校 (うち回収、小学校 16 校、中学校 9 校)
配布・回収	平成 30 年 6 月 27 日研修会にて配布 平成 30 年 7 月 6 日回収

2. アンケート結果のまとめ

全体について

小学校では、ほとんどの学校で読み聞かせや本の貸出等、保護者や地域の方との連携があり、地域の保育園や幼稚園等との連携も見られた。中学校では読み聞かせ、本の相談や貸出、PTA からの本の寄贈で連携がある学校が 3 校であった。学校司書からは、ボランティア (修理や書架移動作業、清掃) や市立図書館との連携 (蔵書点検作業、レイアウト変更作業、選書など) についてさまざまな要望が出た。

①学校図書館と保護者や地域の方との連携について(現状と課題)

- ・ 本の修理やラベルの変更、書架移動等の作業のための人手が必要である。
- ・ (学校司書が) 保護者と接する機会が少ない。
- ・ 日常の業務が忙しくて地域との連携まで手が回らない。
- ・ 学校司書の立場では連携を持ち掛けるのは難しい。
- ・ 連携の前提として「学校図書館とは何か」ということを保護者や地域の方に知ってもらう必要がある。

②学校図書館と市立図書館の連携について(現状と課題、要望)

- ・ 市立図書館の本の利用や連携は、学校の近くに分館があるかないかで差がある。
- ・ 学校利用券の利用方法の変更 (貸出冊数と貸出期間の緩和、同一タイトルの複本貸出、インターネットでの予約、駅前行政サービスセンター等での貸出)
- ・ 市立図書館と学校間を結ぶ配送システム
- ・ 団体貸出の本が検索できるシステム
- ・ レイアウト変更等の援助や、蔵書構成・選書に関する相談、情報共有への対応
- ・ 小・中学生向けの郷土資料の充実
- ・ 中学生へのブックトークの実施
- ・ 市立図書館の司書による学校での全校児童を対象とした行事の開催

③子ども図書館に期待される設備や機能、サービス等について(要望等)

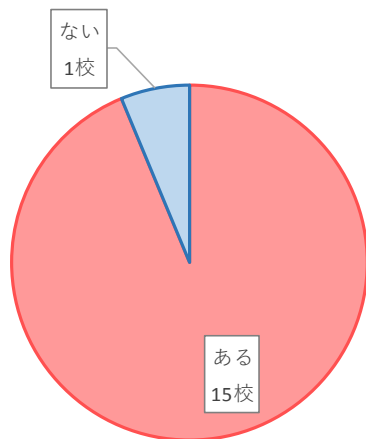
- ・ さまざまな利用者層に対応する各種設備や場所の設置。(赤ちゃん休憩室、子どもカフェ、飲食スペース、宿題に対応した調べ学習コーナー、ipadやPCなどが使えるコーナー、ワークショップなどが体験できる総合的な読書空間、特別支援が必要な子どもたちが利用できる場所)
- ・ 図書館のほか生涯学習施設、スタジオ、カフェなどを備えた施設
- ・ 子どもの年齢層ごとに専任スタッフが常駐する部屋
- ・ それぞれの年齢に応じたサービス(よみきかせ、ストーリーテリング、個別の読書相談など)や行事(ものづくりワークショップなど)の開催
- ・ YA(ヤングアダルト)サービスの実施(コーナーの設置、サービスの充実、YAの読書モデルの確立)
- ・ 学校の長期休業期間の読書支援や読書環境の受け皿としての役割(学年に合ったおはなし会や本の紹介、自由研究支援)
- ・ 学校図書館支援センターの設置
- ・ 大人向けのサービスの実施(子ども連れの大人のためのコーナー、児童書に関する研究資料の所蔵、講座・講演会の開催、学校司書対象のブックトークやアニメーションの研修、教員対象の学校・市立図書館活用講座とよみきかせ講座の開催)
- ・ 子ども図書館より、学校図書館を長期休業期間も開館する体制にするとよい。

3. 調査項目ごとのまとめ

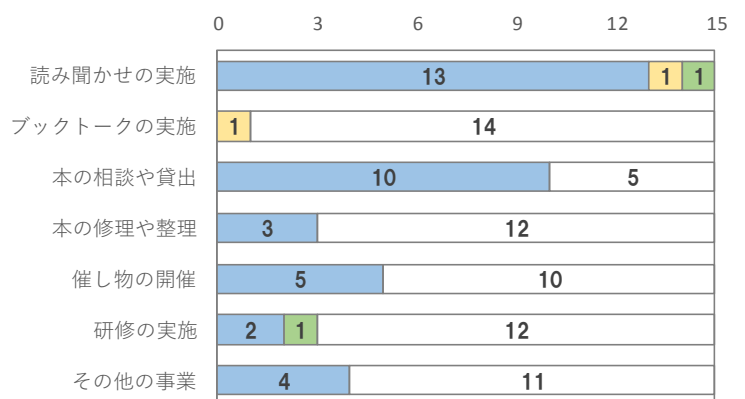
1) 保護者や地域の方との連携について

小学校(16校)

1-1 保護者や地域の方との連携の有無



1-2 連携があると回答した学校の連携・協力事業内容 (校)



■ 実施している(保護者)
■ 実施している(地域の方)
■ 実施している(保護者・地域の方)
 実施していない

その他の事業内容	頻度
図書館内の掲示の変更	月2回
蔵書点検	年1回
昼休みの読み聞かせ	月に2~3回
読み聞かせボランティアの説明会に司書として出席し、読み聞かせのポイントなどを指導	年1回

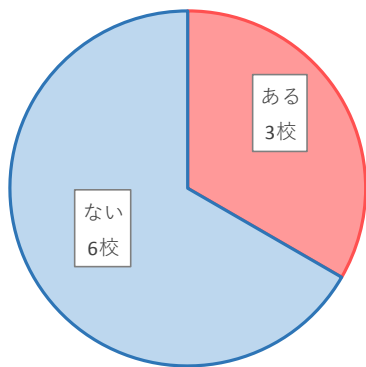
1-3 連携・協力事業内容ごとの実施頻度

※無回答の学校もあるため、事業実施校数と一致しない場合あり

読み聞かせ	ブックトーク	本の相談や貸出	本の修理や整理	催し物	研修
週1回(8校)	隔週1回	月1回	週1回	学期に1回	年1回(3校)
2週間に1回		学期に2~3回	2ヵ月に1回	年1回(4校)	
月2回		年8~9回	学期に2回		
月1、2回		数ヵ月に1回			
月1回		年に2~3回			
年8~9回		年1、2回(2校)			
年10回		年度始めに数回			
		ごくたまに			
		不定期			

中学校 (9校)

1-4 保護者や地域の方との連携の有無



1-5 連携があると回答した学校の連携・協力事業内容

連携・協力の内容	頻度
読み聞かせ	年6回
本の相談や貸出	—
PTAからの本の寄贈	—

連携についての意見など

①保護者や地域の方との連携について

- ・本の修理や館内の掲示を保護者に手伝ってもらっており、助かっている。
- ・月に1回くらい、本の修理をしてもらえる人を探している。
- ・ボランティアに本のラベルの変更や書架の移動などを手伝って欲しい。ボランティアを発足したい。
- ・本の修理を学期に2回してもらっているが、回数を増やしたい。
- ・本を拭いたり汚れを取る作業ができると助かる。
- ・ボランティアは、こちらの希望する作業を手伝ってもらえると助かるが、独自の活動をされるとこちらの負担が大きくなると思う。
- ・日常の業務が忙しく、地域との連携まで手が回らない。
- ・連携の前提として「学校図書館とは何か」ということを保護者や地域の方に知ってもらう必要がある。その上での活動ということになると思う。
- ・中学校では地域や保護者との連携は少し難しいのではないかと。学校司書の立場では自分から動くのは難しい。
- ・以前、学校の管理職との話で、地域連携ルームに図書を置いて貸出や選書の相談、母子への読み聞かせ等で地域と学校図書館が連携できるとよいという話があった。

- ・ 昨年度より学期ごとに1回、小学校の近くの子ども園や幼稚園の園児が図書室に来館するので、読み聞かせを行っている。

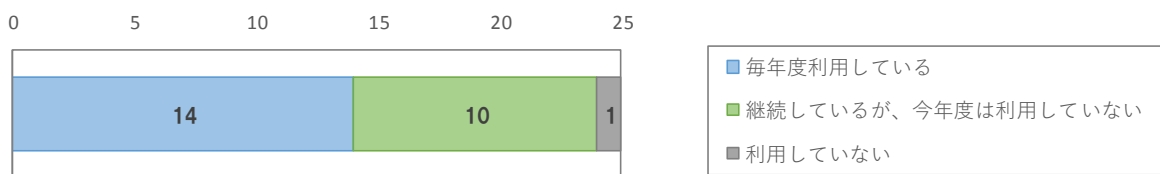
②読み聞かせについて

- ・ 保護者が、高学年の読み聞かせに苦労しているようである。効果的なやり方があるとよい。
- ・ 保護者の方と接する機会が少ない。絵本の相談等ができるとうよい。
- ・ 読み聞かせボランティアがよく来館する。選書の相談を受けている。

2)市立図書館との連携

2-1 団体貸出の利用状況

(校)



*団体貸出について

中央図書館の団体貸出専用の書架から、1学校につき、500冊あるいは児童の3倍のいずれか多い冊数を1年間貸出。1年後に返却しなくても継続利用可。毎月1回、中央図書館から学校まで民間業者による搬送があり、事前予約により、箱単位で貸出・返却の利用が可能。

団体貸出に関する意見など

①利用状況

<毎年度、利用している>

- ・ 選書に時間を取りたい。
- ・ 返却の方法などが利用しやすい。
- ・ 購入できない絵本があるのでよい。
- ・ 絵本など、学級文庫に入れるべき本が少ない時に複本をたくさん借りている。
- ・ 特別支援学級（中学校）の生徒が希望する絵本を借りている。
- ・ 大変役に立っている。

<継続しているが、今年度は利用していない>

- ・ 書架に余裕がない。古い本を抜いてもそれをストックし段ボールに詰めて積むだけになる。（図書館に準備室がない）
- ・ 利用したいが、廃棄作業が数年滞っていたため、書架に余裕がない。
- ・ 現在、書架が本であふれているため、整理してからぜひ利用したい。
- ・ 中学校で、複本で欲しい本や絵本は買うのはもったいないので借りている。
- ・ 利用する時間がなかなか取れない。
- ・ 図書館まで遠くてなかなか選書に行けない。

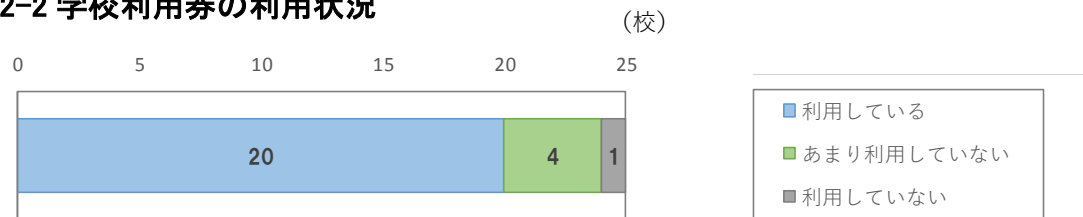
<利用していない>

- ・自校の蔵書が充実してきており、他からの貸出を受ける機会が減少しているため。

②要望

- ・団体貸出の本は実際に行ってみないとどんな本があるかわからないので、パソコンで見ること（検索）ができるシステムがあるとよい。（2件）

2-2 学校利用券の利用状況



*学校利用券について

学校利用券を学校ごとに発行し、学校に対し貸出を行う。団体貸出とは別に調べ学習への対応として、一般市民が利用する図書館のフロアから、本は20冊2週間、CDは4点1週間の貸出が可能。中央図書館（主に児童カウンター）と分館カウンターで対応する。インターネット予約や駅前のサービスセンター及びサービスコーナーでの貸出は不可。利用条件として、同一タイトルは原則的に不可、児童・先生への個人貸出はせず、校内で利用すること、資料の汚破損や紛失は弁償の対象になることがある。

特別貸出について：20冊を超える本が必要な場合は、特別貸出として事前の申し込み（申請書はファックス可）により、貸出冊数の超過、貸出期間の延長、複本の貸出が可能。貸出可能な本は、他の学校と内容や期間が重複していないもの、一般市民の利用が集中していないもの（予約がないもの）、直接来館する子どもの利用に支障がないものに限る。

学校利用券に関する意見など

①利用状況について

- ・分館が近く、気軽に資料を借りに行けるので大変助かっている。（3件）
- ・読み聞かせや調べ学習に使う本などを、近くの分館と連携をとって利用している。
- ・小学3年生以上の学年の児童が調べ学習の際に、学校司書に相談に来るので、まずは中央図書館にある本の中から借りている。とても助かっている。
- ・先生方から教材として利用したいという希望がある時に年に1、2度利用している。
- ・特別支援学級（中学校）の先生の希望で利用した。
- ・すぐにその本が必要、中身を確認したい等の時に利用することが多い。
- ・学校図書館の資料より、もう少し幅広い視野の資料が必要な時などに利用している。
- ・学校にはない大型の絵本などを借りている。
- ・自館の蔵書で間に合っている。（2件）
- ・学校司書として働く時間が限られており、先生からの要望も少なく、調べ物は蔵書の中で賄えている。

②要望など

- ・ 状況に応じて、20冊以上での貸出を認めてもらいたい。(3件)
- ・ 同一タイトルの図書の貸出に冊数制限や貸出日数の制限を緩和してほしい。(3件)
- ・ 同一テーマの本の制限冊数が厳しく、利用しづらい。(2件)
- ・ 授業等で生徒に利用させる場合、規約が厳しいので借りづらい。
- ・ インターネットでの予約ができるとよい。(3件)
- ・ 予約した本の受取が、浦安駅前や新浦安駅前の行政サービスセンターでできるようになると助かる。

市立図書館との連携について、機能やサービス等への希望

- ・ カウンターに行かなくても、巡回して本を借りられるようなシステム(車での配送、流通システム)があるとよい。中央図書館、各分館、市内小中学校がこれで貸借できると利用しやすい。(5件)
- ・ 教科の学習で多くの本が必要な時、貸出期間や冊数の制限を広げてもらえると、さらに利用しやすくなると思う。(2件)
- ・ 授業で毎年使う本は自校で複本を揃えているが、授業で新しい取り組みをする時はどうしても本が不足するため、冊数制限があると厳しい。
- ・ ペア読書やクラスの一斉読書、図鑑の調べ学習を進めたいが、1つの学校で同じタイトルを多く揃えるのは大変で、図書館で借りられるのも2、3冊である。多く借りられる制度があるとよい。
- ・ 蔵書点検や配架の変更等の館内整備、選書の相談等でも連携できるとよい。(2件)
- ・ 学校司書一人では選書の質を維持し続けるのがなかなか難しいので、学校図書館で購入した方がよい本やお薦め本のリストなど提示してもらえると選書の参考になる。
- ・ 学校図書館の蔵書構成をチェックして欲しい。
- ・ 排架を変更したいが、一人では考えがまとまらず困っている。
- ・ 現状でおおむね満足している。団体貸出や先生方からの依頼に対する本の貸出など、親切に対応してもらっている。ストーリーテリングやブックトークなどのサービスもありがたい。
- ・ 自治体が出版する資料は学校図書館では入手が難しいので、小中学生が使えるような郷土資料の充実を希望する。
- ・ 年に一度でいいので、体育館等で全学年にブラックシアターや影絵などをしていただけると子どもたちが喜ぶと思う。
- ・ 中学校でも年に1度くらいブックトークをしてほしい。

3)子ども図書館に期待する機能やサービスについて

①施設や設備等について

- ・ 「子どもカフェ」のような休憩所を作ってはどうか。手頃でかわいいメニューがあると、それを目当てに来る子がいるのではないかと。親もゆっくりできて嬉しい。本のサービスだけでは面白くない。引きつけるための特徴、浦安ならではの何かがあるとよい。
- ・ 赤ちゃん休憩室
- ・ 中学生が友だちと一緒にいけるフードコートなどの飲食スペース

- ・ 東京都の「武蔵野プレイス」は、図書館や生涯学習の場、スタジオ、カフェなどが全て揃っていてとても素晴らしい。あのような施設が浦安市にもあったらと願う。

②機能について

- ・ 長期休業中の読書環境の受け皿として機能して欲しい。
- ・ 夏休みなどの長期休業の時の子どもの読書を支援してほしい。学年に合ったお話会や本の紹介、自由研究支援など。
- ・ YAコーナーやサービスを充実してほしい。(5件)
- ・ 専任のスタッフを常時つけて年齢層に合わせて部屋を分ける。
- ・ 金沢市では、子ども図書館の中に学校図書館支援室があり、学校に必要な本のテーマやタイトル、冊数をファックスすると学校まで届けてもらえるシステムがあり、とても助かった。杉並区でも市立図書館と学校図書館間の配送が月に数回あった。今は、授業が混み合っていると、市立図書館に貸出・返却に行くのが勤務時間外になることが多いので、配送があるとよい。(2件)
- ・ 子どもは一人で遠方へ行けないので、身近かな分館の児童サービスやYAサービスのバックアップを強化できる機能が必要。
- ・ 幼児を連れた大人のために、大人対象のコーナーも必要。
- ・ 夏休みの宿題(理科や郷土の自由研究、読書感想文、人権や税に関する作文など)ができる調べ学習コーナー
- ・ PCやipadなどが使えるコーナー
- ・ 幼児から中学生までを対象とすると、それぞれの年齢に応じた空間、例えば幼児にはわらべうたや本に触れられる場所、低学年にはおはなしや手遊びの場所、高学年には読書や学習資料を読む場所、中学生には読書や学習が集中してできる場所があるとよい。特に子どもと大人の狭間にある中学生にとって、今の市立図書館には特定の居場所がない気がする。
- ・ 特別支援の子どもたちが利用できる場所があるとよい。
- ・ YAゾーンの現状に見合った読書の明確なモデルを作って欲しい。
- ・ 子どもたちがいろいろ(ブックトーク、ワークショップなど)体験できる総合的な読書空間があるとよい。

③サービスや行事について

- ・ ストーリーテリングを子どもたちがとても楽しみにしている。学校に来てもらうのもいいが、クラス単位で図書館に聞きに行く、図書館の他の場所も見学するなどの機会があればいいと思う。
- ・ 学校図書館では対応する余裕がないので、一人一人の子どもの読書相談に対応するサービスがあるとよい。
- ・ 年齢に応じた読書サービスを提供してほしい。
- ・ 小さい子どもたちが楽しめるものづくりワークショップの定期的開催。
- ・ 学校司書を対象としたブックトークやアニメーションの研修のほか、教員を対象とした市立図書館や学校図書館の活用講座や読み聞かせの講座の開催。
- ・ 大人向けの研究資料や、講座・講演会があるとよい。
- ・ 絵本の充実と年齢別の読み聞かせやストーリーテリング等、子どもが「子ども図書館」に行けば、いつもワクワクドキドキできるようなサービスがあるとよい。

④その他

- 大阪の国際児童館に行った時、子どもがたくさん来ていた。本がたくさん手にとれ
るとよい。
- 子ども図書館より、学校図書館を長期休業期間も利用できるような体制にして開放
するとよい。
- 長期休業期間に市立図書館の利用をすすめても、子どもの時は行ったけど、中学生
になってからは学校の図書館の方がいいという生徒が何人かいる。
- 子どもと読書に関わるすべての人に対して、宝庫となって欲しい。